



# 地域に感謝する心と 守り育てようとする精神が 「笑顔の連鎖」を生み出していた

## 取材を終えて

組織づくりや規約・計画書の策定など、交付金を受けるためには、いくつか手順を踏み、手続することが必要となる。実際に「事務手続きが多くてなかなか大変」という声も聞く。

しかし、採択を受けることで活動の幅が広がり、これまで取り組めなかったことにもチャレンジできるなど、本事業がもたらす効果は想像以上に大きいものがある。

また、活動の基本となる「農地や農業用水などの維持管理、環境保全活動」は、これまで自治会単位などで実施してきた例も多く、活動にとっつきやすい

という面もあるだろう。ここであらためて、本事業の魅力について考えてみたい。

### ① 地域を見つめる目が増える

「農道の側溝が詰まっている」「子どもたちの遊び場に危ない場所がある」「畑の脇に花を植えたらみんなが見てくれる」…など、普段から地域を見つめる住民が増える。実際に、住民の発案によりシバザクラを植栽する団体が増え始めた。環境保全や安全な地域づくりに加え、美しい景観形成にも一役買っている。

### ② 住民一人一人が主役の地域

組織の話し合いの場が設けられることで、男性も女性も関係なく、さまざまな年代の人が自由意見を述べ合うことができ。住民一人一人が主役の地域づくりの実現につながる。

### ③ 連帯感や結束力が強くなる

これまで自治会、花の会、いきいきクラブ、子供会など、個々に活動していた組織が共に手を携え、同じ時間を共有することで、地域全体の連帯感や結束力が強化される。

### ④ 異世代間交流が活発になる

伝統行事や学校の校外活動への協力など、地域住民が子どもと接する機会が増え、異世代間の交流が活発になる。実際に、中川根南部小の環境学習に協力

した瀬平けっこにせつ会の活動では、大人たちが巧みに魚を捕まえる様子を見た子どもたちがまねをしたり、話を熱心に聞いたり、ごく自然に交流が深まっていた。久保尾の炭焼き体験や徳山のホタル保護活動などにも同様の効果があるだろう。

高齢化・過疎化が進み、地域の連帯感が薄れつつある現代だからこそ、本事業が担う役割は大きい。本事業が本当に目指しているのは「地域の環境を守る」という目的の元で、地域が一つにまとまる」ことにある。交付金という経費のサポートは、あくまで一つのきつかけに過ぎないのだ。

◀瀬平地区の農道で実施された植栽活動には約60人の会員が参加。熱心にくわをふるって穴を掘り、しだれ梅などの苗木を植栽した。かたわらには黄色い花がひっそりと咲き、活動の様子をやさしく見守っていた。

地域を見つめる目、環境を守ろうとする手は、多ければ多いほどいい。環境を守ることが、そこに住む自分たちの生活を守ることでもある。より多くの住民が地域資源の価値に気付き、さまざまな視点からアイデアを出し合うことで、さらに生き生きとした、特色ある地域を築いていけるのだろう。

本事業の採択を受ける団体が増えることで、将来的には、団体間の連携や交流が生まれる可能性だつてある。

農地・水・環境保全向上対策事業。それは、地域づくりの明日を開く「カギ」の一つなのかもしれない。

3月末、ある団体の活動取材した。朝早くから集まる地域の人たち。若い人がいた。おじいちゃん、おばあちゃんもいた。男性・女性も関係なく、みんな作業にいそしむ姿があった。「あんた元気だったかね」「今日

は雨が降らなくて良かったからねえ」…。そんな会話があちこちから聞こえてくる。生き生きと輝く地域とは、こうやって築かれていくんだと実感した。

取材中、何より印象的だったのは、楽しそうに笑い合う住民たちの「笑顔の連鎖」だった。

# 農に実りを、地域に花を

特集 農地・水・環境保全向上対策事業 終